

自律的好循環とローカルSDGs推進のためのコンソーシアム構築事業

◆提案代表自治体：佐賀県鹿島市（2023 年度選定）

◆連携自治体：佐賀県太良町

◆関連するゴール：



①地域概要と課題及び目標

【地域概要】

両市町とも有明海及び多良岳を有し森里川海干潟に囲まれた地域で、豊富な自然資源から第一次産業が基幹産業となっている。

- ・ 鹿島市：地域循環共生圏の取組で「ローカル SDGs」を推進。令和5年SDGs未来都市となる。干潟の観光が有名。
- ・ 太良町：林業・水産業のブランディングが得意。特に町有林の「200 年の森」を目指す森林管理は、他市町のモデルとなっている。

両市町とも共通課題として、気候変動の影響による第一次産業の衰退と人口減少があげられる。

【課題及び目標】

- ・ 両市町の産業構造の維持。就労者が減ったとしても発展し続け、かつ連携して課題を解決していく体制の構築
- ・ 気候危機による災害の増加を防ぐ環境保全
- ・ 第一次産業の競争力強化
- ・ 脱炭素に資する事業の取組

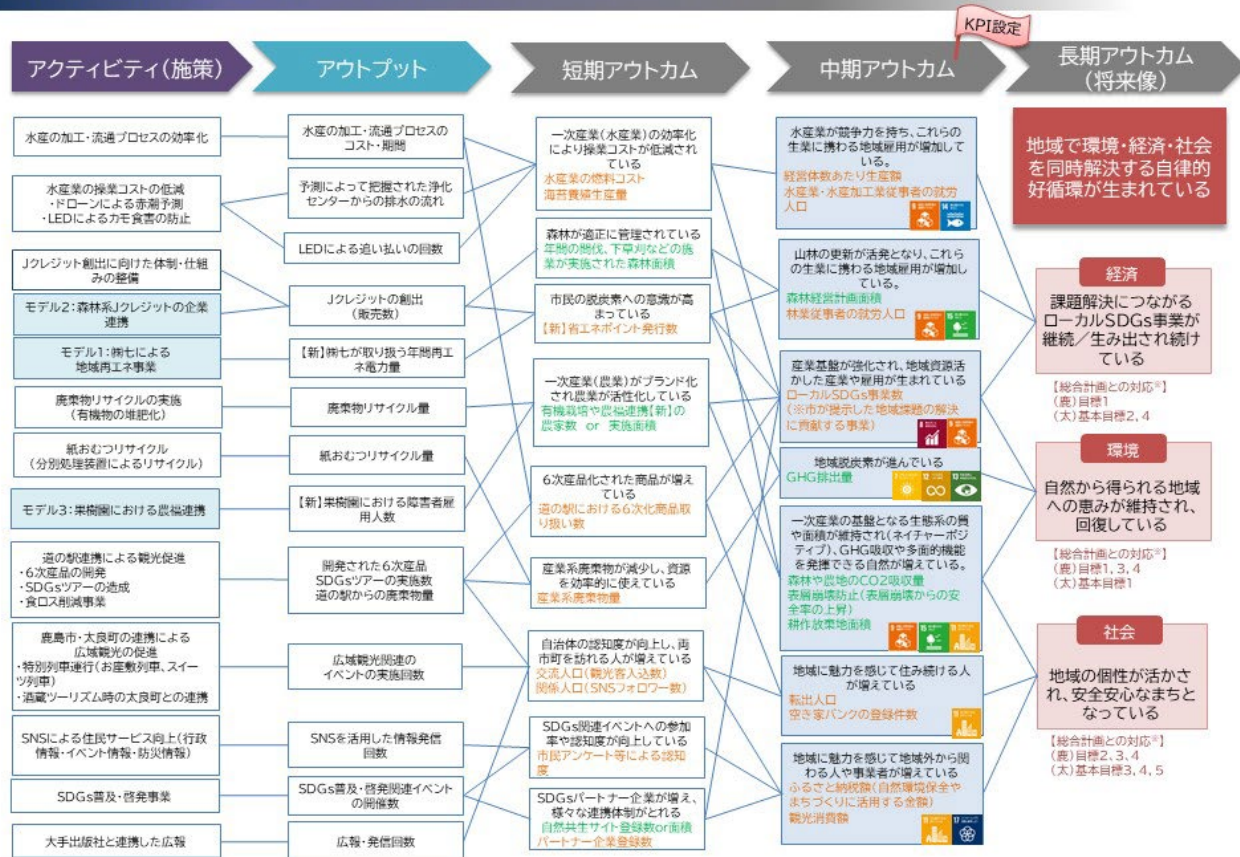
②全体計画の概要

同じ自然環境を持つ自治体同士の連携のもと、自律的好循環とローカルSDGsのための産業集約を実現する組織を構築する。当組織は、鹿島市が構築した自律的好循環を生み出す「SDGs事業創出プラットフォーム鹿島モデル」を横展開し、両市町の持つ強みによって高いシナジー効果を創出し、持続可能な社会を構築する。

③取組成果

- ① ロジックモデルによる指標・事業の見える化と、自律的好循環を生み出す仕組みづくり
- ② 環境に資する事業の創出
- ③ DX を活用した脱炭素の取組
 - ・ 水産業の水揚げ量を増やす施策の試行
 - ・ 森林の環境保全から稼ぐ仕組みづくり J クレジット
 - ・ 道の駅の連携による観光・広域流通の確立
 - ・ 金融機関と連携した事業化支援、環境で稼ぐ仕組みの構築・資金の確保

環境評価指標、SDGsインパクト評価指標、ロジックモデル



④取組推進の工夫

- SDGs の推進は単独の自治体で取り組むものではなく、広域的に取り組むことで更なる目標達成ができる。今回の事業は、協議会を設立し、双方の事業を最適化し、運営をすることで、小規模自治体における「事業費」「マンパワー」の不足を補うことができた。
- 環境についても、連携して取り組むことで、お互いに不足分を補完でき、さらなるシナジー効果を生んだ。

⑤今後の展開策

- 今後は、デジタル田園都市国家構想交付金を活用し、今回のコンソーシアムを発展・拡充しながら、様々な主体が協力し合い、豊かな自然資源を持続可能な形で活用することで、経済・社会への好循環を生み出し、自然環境を維持・回復していくローカルSDGsを推進していく。
- コンソーシアムの中に、「チームかしたらリビングラボ」を創設し、鹿島市・太良町で活躍する企業や団体、教育機関や地元住民が協働・共創しながら、新しいビジネスモデルやマーケットの創出、SDGsなどを普及させ、移住・定住・企業誘致と外部から選ばれるまちになることを目指す。
- 今回の事業の成果を得て、他自治体から連携の打診が来ており、連携することでさらなるシナジー効果が狙える事業については、広域的な取り組みを進める。